

一般質問発言通告書

発言順位 1番

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 4年 11月 22日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 14番 野村 諒子

質問事項 1	市民に期待される三島駅南口東街区となるための取り組み
具体的内容	
地球の温暖化と合わせて、新型コロナ感染の蔓延とウクライナ侵攻により、世界規模で経済が大きなダメージを受けています。	
三島市でも外国人観光客もいなくなり、観光人口も激減したことから大きな影響が出ていると言わざるを得ません。	
そこで、今後のまちの経済を立てなおし活気のあるまちをつくっていくためには、まちの顔とも言える三島駅南口東街区の開発は重要な役割を果たすものと思います。	
市民の関心を高めるだけでなく期待され、利用される場所となるためには、どのようなことが求められるのか、その取り組みについて伺います。	
1 建設資材の高騰等による工事費高騰への対応はどうか。	
2 工事費の高騰等による事業のスケジュールへの影響と今後の進め方はどうか。	
3 導入機能の検討状況は。(社会状況の変化にどう対応するのか。)	
4 広域健康医療拠点としての具体的な導入機能は何か。	
5 三島らしい機能の集積や特徴あるテナントの導入に向けた取り組みはどうか。	
6 東街区の開発による経済効果や成果目標はどうか。	
質問事項 2	外国人労働者に選ばれるまちづくり
具体的内容	
2000年には、三島市のゼロ歳児の人数は985人とされていますが、2022年の10月31日現在では577人、22年間で約41%減少したことになります。	
少子化は、単に人口が減るということではなく、その後の就労人口の減少により、あらゆる産業が成り立たなくなることを示しています。	
少ない労働者をあらゆる産業が奪い合うことになり、その結果、労働賃金上昇から物価の上昇を招くことにもなります。	
また、技術の伝承がされなくなり産業界にとっては産業そのものが成り立たなくなる可能性があります。	
少子化を止める取り組みはされていますが、減少を食い止める効果が出ているとは思えません。	
このような状況を打破するためには、外国からの労働者を受け入れていくことが重要になってきます。今の日本の産業の中でも、技能実習生等の外国人労働者が支えている産業が数多くあります。円安が進み決して有利な条件ではない中で、日本に来て三島市で働きたいと思っただけのまちづくりが今後は必要ではないかと考えて、外国人労働者への対応について伺います。	
1 三島市の外国人労働者の状況について(出身国、就労先、勤務状況などの主な傾向)	
2 外国人労働者の課題と取り組みについて	
3 地域社会との交流の課題と取り組みについて	
4 外国人労働者に選ばれるまちにするための取り組みについて	